

邦楽や日本舞踊を身近に楽しんで頂くために —和の会の活動—



左から

日本舞踊 西川扇千代(にしかわ せんちよ)

1958年日本舞踊をはじめ。西川流西川扇藏師（現人間国宝）に師事。西川流師範。日本舞踊協会、大会賞・奨励賞受賞。平塚市桃浜町在住。

箏曲 大橋喜久優(おおはし きくゆう)

1955年山田流二代上原真佐喜師（人間国宝）に師事。現在上原信昭師に師事。箏曲を国内、海外で指導。現・ドイツ日本人学校箏曲講師。平塚市中里在住。

長唄 杵屋君三郎(きねや きみさぶろう)

1965年父杵屋六七郎に手ほどきを受けた後、十五代杵屋三郎師（現人間国宝）に師事。国立劇場伝統芸能伝承者養成講師他。平塚市中里在住。

日本舞踊 西崎昇陽美(にしざき しょうようみ)

1957年日本舞踊をはじめ。二代目西崎緑師に師事。西崎流師範。創作舞踊・海外舞踊交流活動等にも取り組む。平塚市明石町在住。

江戸から昭和の初期にかけて大衆に親しまれていた邦楽や日本舞踊。しかし時を経た今を見てみると、時代と少し距離をおく存在になってしまったような気がします。

私たちが和の会（なごみのかい）をつくった理由はそこにありました。日本に古くから伝わる伝統文化を今の人々に分かり易い形で伝えたい、その為にはどうしたら良いのか、というのがそもそもの出発点でした。

発起人の四人(平塚在住)がジャンルや流派の枠を越えて一つの方向に向か



第一回公演のスナップ



レクチャー形式の第二回公演

お客様も舞台上上がり楽しいひと時を過ごしました。お客様の感想が沢山寄せられた事です。和の会の主旨でもある伝統文化の裾野を少しでも広げることができ、私たちにとって大きな励みとなったのでした。

私たちは、聞く、見る、というだけではなく、客席と舞台の間の垣根を取り払い、その距離を少しでも縮める為に、和楽器の実物を見せながら成り立ちや演奏方法等を分かり易く説明したり、舞台上にお客様に上がって頂き即席の日本舞踊と一緒に楽しんでもらうといった事にも取り組んでいます。

邦楽や日本舞踊の歴史は江戸の頃までさかのぼり、今では余り見る事のない昔の四季の情緒や、人々の営み、生活風景などを演奏や唄、舞踊表現で現代に伝える素晴らしい文化なのです。

日本に古くから伝わる伝統的なものが日増しに薄れていく今日、邦楽や日本舞踊を通して何かできる事はなにか、そしてその魅力や良さを広めたいという和の会の発足当時の主旨は徐々にですが、蕾から花が咲く一歩手前の段階に達してきたような気がします。

和の会は今後、年一回の公演以外に小学校や公共施設での活動も視野に入れ、おこがましい表現で恐縮いたしますが少しでも地域文化向上のお役に立てたらと考えています。

う事ができたのは、伝統文化としての邦楽や日本舞踊の有り方や考え方に一致が見られたからです。

企画を考えていく中で良き協力者にも巡りあいました。流暢な解説で毎回案内役として出演して下さる杵屋三七郎さんです。東京芸大出身で子ども達に和楽器や日本舞踊をわかり易く伝える活動が話題になりNHKの邦楽番組にも取上げられたほどです。

和の会「日本伝統芸能鑑賞会」は今年で第三回目を迎えますが、いま振り返って何よりも嬉しかったのは用意したアンケート用紙に「分かり易く楽しかった」といった伝統芸能に普段接する機会

の少ない方たちの感想が沢山寄せられた事です。和の会の主旨でもある伝統文化の裾野を少しでも広げることができ、私たちにとって大きな励みとなったのでした。



分かり易いと好評だった
和楽器の解説